

季刊

スケットニュース

SKET NEWS

VOL.52

2022年【夏号】



contents

- 1 第65期通常総代会開催
- 2 外国人技能実習生の
入国状況について
- 3 2年半ぶりのベトナム訪問
- 4 飲酒運転の根絶

5 仲間と登った世界12の最高峰

6 アルコールチェッカー

組合Facebookページ随時更新中！



<http://www.facebook.com/tsk.kumiai>

第65期通常総代会開催

通常総代会にて、予定されていた議案はすべて可決されました。



本年6月30日(木)、この季節にしては珍しいほどの猛暑が続く中、東西商工協同組合 第65期通常総代会が三田NNホールにて開催されました。

予定されていた全ての議案が滞りなく決議されました。この度の組合の昨年度事業活動の概況に関する事項について抜粋し掲載致します。



我が国経済は、昨年度に続き、感染症の動向に大きな影響を受けることとなりました。9月末までの緊急事態宣言の延長の延長等に伴う行動制限や自粛による経済社会活動の抑制、一昨年秋以降に顕在化した半導体不足、感染拡大に伴う部品不足などの供給制約が、輸出や個人消費の足かせとなり、昨年9月までは景気回復は緩やかなものに留まりました。緊急事態宣言等が解除された10月以降は、景気にも持ち直しの傾向が見られてはきましたが、依然、感染拡大や原材料費の上昇等、景気を下押しする要因

もあり、その影響を注視すべきと考えています。このような情勢の中で、弊組合は、組合員各位の事業経営の維持・向上、改善に資する各種事業の推進に努めて参りました。

外国人技能実習生共同受入れ事業については、感染拡大に伴う日本政府の水際対策強化の影響で、期初から新規の入国が全くできない状況が続き、特定活動として帰国困難な実習生が残ったものの、在留する技能実習生全体では減少となりました。しかし、年度末から入国が少しずつ緩和されてきており、来期以降は回復が期待されます。

一方、特定技能外国人支援事業については、入国がままならない組合員企業の需要増に背中を押され、昨年度より実績を上げる事が出来ました。

ETCカード事業については、今年度の実績は、全体としてコロナ禍前の実績と比べ9割以上を維持しつつも、緊急事態宣言下の経済社会の制限による低迷もあり、弊組合では、会員企業様の経費軽減を図る為、ETCカードの切替え等の対策を積極的に行って、安定した事業運営を維持する活動を継続致しました。また組合員様の利便性・セキュリティ対策として、WEB明細システムのリニューアルを行いました。

ご支援、ご協力いただきました組合員各位に深く感謝申し上げます。



外国人技能実習生の入国状況について

2022年の3月末から待ちに待った入国規制の緩和措置が発表され、技能実習生についても入国が再開されています。

この度のコロナ禍により、私どもが受入れる予定であった技能実習生の中にも2年以上本国での待機を余儀なくされ、この機を待ちきれずに（それは主に各家庭の経済的な理由からということになります）日本での技能実習を諦めた実習生たちも少なからずいました。せっかく受入れを決めていただき、同じように入国を待ち望んでいた組合員企業様にはたいへん心苦しい連絡をせざるを得ない場面もありましたが、入国再開の報は久しぶりに前向きな明るいニュースとなりました。

その3月末以来、本稿執筆の時点（6月中旬）までに、受入れ企業様の迅速なご判断やご協力、また現地の送出し機関の査証発給に関する協力を得て、約300名超の入国が実現しました。まだすべてではありませんが、コロナ禍で入国が滞っていた実習生たちの多くが日本での技能実習のスタート地点に立てる状況となっていました。依然として1日の（日本全体での）入国者数は2万人と制限される中ではありますが、感染状況の落ち着き、ワクチン接種の浸透、経済回復の必然性などにより、海外からの団体

観光客などの入国も再開され始めました。今後も穏やかなものであるかも知れませんが入国者数の拡大にも期待しているところです。

また入国に際しての、検疫関連の種々の制限に関しては対象の国ごとに違いはありますが、現地の感染状況やワクチン接種の浸透度合いに応じた柔軟な対応に移行しつつあります。

技能実習生の送り出し国として現在最も多くの割合を占めるベトナムは本稿執筆時点では「黄」グループとなり、日本国政府が有効と認めるワクチン接種証明書が無ければ依然自宅等での待機が求められています。今後そう遠くない時期に「青」グループに組み入れられ、出国前検査での陰性証明だけで入国が可能となることが期待されています。

こうした入国に関する制限事項や制度に関する情報はその都度、組合員企業様に対しては担当者よりご連絡をさせていただきます。

未だコロナ禍以前のような状態に完全に戻るという見通しは持てませんが、徐々に正常化に向けて動いているのだ、という実感はあります。

引き続き組合員企業の皆様のご理解とご支援を頂戴いたたく、よろしくお願い申し上げます。

滞在していた国・地域の区分	有効なワクチン接種証明書	入国時の検査措置		
		出国前検査	到着時検査	待機
青 米国、英國、他	問わない		×	×
黄 ベトナム、インド、他	あり		×	×
	なし	○	自宅3日間 ※1	
赤 パキスタン、他	あり	○	自宅3日間 ※1	
	なし	○	施設3日間 ※2	

※1 待機3日目に検査を受検し陰性を確認した場合。検査を受検しない場合は7日間。

※2 施設待機3日目に検査を受検し陰性であれば、待機解除。

日本入国時の検査措置
(2022年7月6日現在)

2年半ぶりのベトナム出張報告 理事長 金尾健大

コロナ禍で2年半控えていた海外出張ですが、今年3月、海外からベトナムへの入国者について、出国前に受けた新型コロナウイルス検査が陰性であれば、入国後の検査および隔離措置が不要となる水際対策の緩和を受け、5月下旬から6月上旬にかけ、送出し機関視察を目的としてベトナムに出張して参りましたのでご報告いたします。



まず、入国に際してですが、ベトナムへの入国者は、新型コロナウイルスのための水際措置が適用される以前の入国手続に戻されており、日本出国前のPCR検査は必要がなくなった為、入国審査の列が長くなっていたものの、それ以外の手続きはスムーズに進みました。

空港から市内までの移動について制限はなく、配車アプリやタクシーも利用可能で、2年半ぶりのベトナムの街は「ロックダウンの影響が大きかった」と現地の人々が口を揃えて言われる割には、一見、以前と変わらぬ賑やかな雰囲気で活気に満ちていました。



ハノイに行ったことがある方には見覚えのあるハノイ都市鉄道工事は、昨年の11月に10年余りの期間を経てベトナム初の都市鉄道として遂に開通しました。実際に乗車してみると、乗客はまだ少なく、空席が目立ちます。駅を降りた後は公共バスの接続があり、そちらの利用が増えることで市内の渋滞緩和が期待されていますが、利用者は伸び悩んでおります。バイクによるドアtoドア移動が当たり前のハノイでは、電車利用の普及には時間がかかりそうです。乗った感想ですが、高架から見るハノイは今までに無かった高い視点から街を見ることができ新鮮です。また、渋滞が無いのはとても魅力的です。ハノイご訪問の際にはぜひ乗車してみて下さい。

今回の出張では送出し機関 9社を視察して参りましたが、コロナ禍の影響で日本語学校を縮小した所、新しくこの4月から開校した所、ライセンスをこの2年の間で取得し独立した所など様々でした。



全体的にはこの2年で従業員の解雇などで力を落としたところが多い一方、様々な工夫をしながら力を落とさず健闘している機関も多くあり、弊組合では今後も注視しながら送出し機関を推薦して参りたいと思っております。

視察した5月下旬時点では、待機していた実習生は、ほぼ日本に入国済みで、長期待機者は少ない状況でした。実習生の募集についても「募集が難しい時期は過ぎた」との意見が多く聞かれ、今後の募集と往来再開の促進に期待したいと思います。↗

現在は円安の影響等で、宿泊費や渡航費用が以前より高くなっているように感じられました。

日本帰国時には飛行機出発時間の72時間以内の陰性証明が必要となります。医療機関への検査手配は、送り出し機関に依頼することができました。指定の時間と場所にキットが届けられ、結果は7時間程度メールとバイク便で通知されました。価格は4,000円程（医療機関により違いあり）で簡単です。3回のワクチン接種者は事前に帰国者用アプリ「MY SOS」に登録しておけば日本到着時の検査は不要で、入国審査は30分程度で済みました。徐々に外国人技能実習生の受け入れも活発化しておりますので、引き続き宜しくお願ひいたします。

入国手続きはベトナム政府によって急きょ変更となる可能性があるため、詳細は隨時、弊組合担当者や在ベトナム日本大使館のウェブサイト等外部サイトをご参照いただければと思います。



みんなで守る「飲酒運転を絶対にしない、させない」

飲酒運転による交通事故は、平成18年8月に福岡県で幼児3人が死亡する重大事故が発生するなど大きな社会問題となりました。その後、各方面的取組や、平成19年の飲酒運転厳罰化、平成21年の行政処分強化などにより、飲酒運転による交通事故は年々減少しているものの、依然として飲酒運転による悲惨な交通事故は後を絶ちません。飲酒運転は極めて悪質・危険な犯罪です。国民の皆さん一人一人が「飲酒運転を絶対にしない、させない」という強い意志を持ち、飲酒運転を根絶しましょう。

飲酒運転はなぜ危険か？

アルコールは”少量”でも脳の機能を麻痺させます！ 飲酒運転は、ビールや日本酒などの酒類やアルコールを含む飲食物を摂取し、アルコール分を体内に保有した状態で運転する行為です。

アルコールには麻痺(まひ)作用があり、脳の働きを麻痺させます。一般に「酔う」とは、血中のアルコール濃度が高くなることにより、大脳皮質(理性や判断をつかさどる部分)の活動をコントロールしている大脳下部の「網様体」が麻痺した状態を言います。お酒に酔う

と、顔が赤くなる、多弁になる、視力が低下するなどの変化が現れ始め、さらに知覚や運転能力をつかさどる部分が抑制されることにより、同じ話を繰り返したり、足元がふらついたりします。このように、飲酒時には、安全運転に必要な情報処理能力、注意力、判断力などが低下している状態になります。具体的には、「気が大きくなり速度超過などの危険な運転をする」、「車間距離の判断を誤る」、「危険の察知が遅れたり、危険を察知してからブレーキペダルを踏むまでの時間が長くなる」など、飲酒運転は交通事故に結びつく危険性を高めます。

また、酒に弱いと言われる人だけではなく、酒に強いと言われる人でも、低濃度のアルコールで運転操作等に影響を及ぼすことが各種調査研究により明らかになっていますので、**飲酒したら絶対に車両等を運転してはいけません！**



季刊 スケットニュース

SKET NEWS

仲間と登った世界12の最高峰

東西商工協同組合理事の浅野修一です。

私の現役時代は電機メーカーで海外を担当し海外での勤務は16年と長いものでした。退職後、独立行政法人などで中小企業様の海外輸出・進出などの支援を中心とした経営コンサルタントとして活動しています。主に東南アジアの諸国向けが多く、ベトナム、タイ、マレーシアなどが中心ですが、昨今は圧倒的にベトナムへ進出される企業様が多く、時代の移り変わりを感じます。ここ2年はコロナ禍で海外出張もままならず、WEB会議ばかりでしたが、これからは海外出張も可能となるので企業様の高い進出欲に応えて行けるかと思います。

昨今、日本とアジアを中心としたTPP11やRCEP等の経済連携協定(EPA)が発効し、ますますアジア太平洋での経済のつながりが進展しています。多くの東西商工協同組合に加盟されている企業の皆様は既に技能実習生や特定技能実習生を活用され国際化を実現されていますが、アジアを中心とした急激に成長する海外への展開を活用され、大きな世界市場を視野に入れられることを是非お勧めします。

さて私は今年3月に古希70才を迎え、「仲間と登った世界12の最高峰」という本を出版しました。大学ではワンダーフォーゲル部、会社では山岳部で山歩きをしていましたが、海外勤務が多く山からも遠ざかっていました。ドイツに駐在した43才のころ、思い立って山の装備を揃えトレーニングを始め欧州最高峰であるフランスのモンブラン(4,704m)にフランス人ガイドと登ったことから山登りを再開しまし



ヨーロッパ最高峰 モンブラン山

た。その後、アフリカ最高峰キリマンジャロ 5681m（タンザニア）、東南アジア最高峰のキナバル 4,095m（マレーシア ボルネオ）など多くの海外の山に登り、気付けば登った世界各国の最高峰は12となりました。



東南アジア最高峰 キナバル山

4,000mを超える高峰では毎回激しい高山病に喘ぎながらの辛い登頂でしたが、長い準備やいくつもの困難に立ち向かえたのは、一緒に頂を目指す仲間達がいたことに他ならないと感じています。

また、仲間に誘われ61才から始めたサイクリングでも四国一周や台湾一周に出かけました。「車では早すぎる、歩いたら遅すぎる、それなら自転車に乗って時速20kmのゆったりペースでサイクリングを楽しんでみよう」 これは自転車大国の台湾で聞いた言葉です。

他にも、仕事も含め64か国を巡るきっかけとなっ



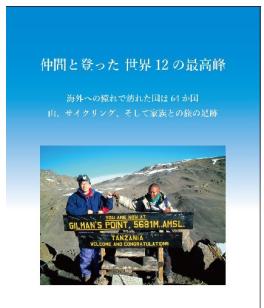
台湾一周サイクリング 龙門橋

た学生時代初めての海外・マレー半島の一人旅、合計16年の海外駐在期間を共に海外で過ごした家族と巡った世界各国の旅の思い出など20ほどの手記をまとめたものです。

この仲間と過ごした日々は、会社生活にも通じるものがあり、日本人のみならず、多くの外国人と今もSNSで繋がり交流しています。特に欧米人は所属の会社ではなくそれぞれの個人との交流を大切にしますので、お互い仕事が変わっても変わらず交流を続けることが出来ます。 本のあとがきに書かせていただきましたが、私は Dreams come true. (夢はかなう) という言葉が大好きです。夢を持ち続けるといつかそれは叶うものと信じています。皆様のDreams come true. を祈念いたします。



タイ プーケット島



浅野修一

アルコールチェック（アルコール検知器）について

アルコールチェックはどんなもの？

アルコールチェックとは、息を吹きかけるだけで体内の残留アルコール濃度を数値化してくれる便利な機器です。一般的に体内のアルコール濃度を測定する方法として「血液採取」と「呼気採取」が挙げられます。業務用では息でアルコール値を測定する「呼気採取」が用いられることがほとんどです。アルコールチェックは、見た目の様子からだけではわからない微量の飲酒も検知できます。前日摂取した酒が残っているかどうかを確かめられるため、安全に運転業務を行うにあたって欠かせないものといえます。

アルコールチェックの選び方

アルコールチェックは様々なメーカーから販売されています。そのため「どのアルコールチェックを使えばいいのか迷ってしまうこともあるでしょう。

企業で使用するアルコールチェックは、次の2点が重要です。

1.誰にとっても使いやすく、わかりやすい表示である
2.出張や直行直帰用のものは携行に適したものを選ぶ
以上記の視点を基に、アルコールチェックの選び方を紹介します。

A.タイプで選ぶ

アルコールチェックには、ハンディタイプと据え置きタイプの2種類のタイプがあります。それぞれのタイプで利便性や使用回数が異なるため、アルコールチェックを選ぶ際にはタイプで判断してみましょう。ハンディタイプは鞄やポケットに入れて、仕事・プライベート問わず手軽に持ち運べるメリットがあります。一方で、使用回数が決まっており、いざ仕事前に使用する時に使えないかもしれませんというデメリットもあります。また、据え置きタイプは会社の事務所や営業所に設置して使用するタイプ。搭載している感知センサーを交換さえすれば、中長期的に使用できるのが強みです。しかし、据え置きのため携帯しにくく、ハンディタイプよりも手軽に検査ができません。

B.測定の精度で選ぶ

編集後記

エジソンの言葉で「天才とは、1%のひらめきと99%の努力である」

“努力”に焦点を当てがちだが、強調したかったのは「1%のひらめき」の大切さであったとのこと。どうすれば「ひらめき」が湧くのか、成功するために何が必要なのか。“ひらめきのために努力し続ける”ことを意識したい。日々の業務に追われ、“努力の為の努力”になりがちですが、ひらめきのための努力を忘れずに、皆様のひらめきの一助になれる様これからも組合員の皆様へ誌面を通じて様々な情報を提供してまいります。

仕事でアルコールチェックを使用する場合、機器の測定精度は重要でしょう。精度に重要な影響を及ぼすアルコールチェックの感知センサーには、電気化学式センサーと半導体式ガスセンサーの2種類がありますが、電気化学式センサーは測定の精度が高いという特徴があります。タバコの煙や歯磨き粉などから発生するアルコール以外の成分には反応せず、アルコールにのみ反応して濃度を測定できます。価格が高い傾向はあるものの、精度の高さを求めるならば電気化学式センサーを搭載しているものを選ぶことをおすすめします。

C.機能の多さや種類で選ぶ

アルコールチェックには便利な機能を搭載したものがあります。たとえばスマホのアプリとの連動機能があるもの。この機能は「いつ・どこで・誰が検査したのか」を遠隔で記録・保存できるので、会社用はもちろん、健康管理の一環で管理したいにもおすすめです。

また、夜間でも使用できるバックライト機能があるもの、省電力でバッテリーが長持ちするものなど、現在発売されているアルコールチェックには便利な機能が搭載されています。

アルコールチェックには使用期限がある

ハンディタイプをはじめ、アルコールチェックには使用期限があるのにも注意が必要です。多くのアルコールチェックの使用期限は半年から1年程度、使用回数は3,000回となっています。使用期限が迫るとブザーが鳴るものもあるので、そういういったアルコールチェックを使用していれば大体の買い替え時期を把握しやすいでしょう。

測定だけでなく記録も必要

アルコールチェックを仕事で使う際、測定するだけでなくデータ記録が必要とされています。特に運行管理業務ではデータ記録が義務付けられています。

まとめ

アルコールチェックの使い方や種類についてまとめました。タイプや精度、機能などさまざまなので、用途や求める性能を明確にして選ぶことをおすすめします。アルコールチェックをしっかりと行い、安全な運転を心がけましょう。



東西商工協同組合

〒108-0014
東京都港区芝4-3-5 岡田ビル
TEL: 03-5442-2277
FAX: 03-5442-2477

ホームページ
<http://tsk-gr.com/>